

平成31年度 有田町立有田中部小学校 学校評価計画

<b>1 学校教育目標</b>	<b>2 本年度の重点目標</b>
有田を愛し、夢や希望を持って、明るく元気に生きる児童を育成する。	① 教職員の資質を高め、児童の学力向上を図る。 ② 児童へのきめ細かな支援を行い、心の教育を充実する。 ③ 望ましい生活習慣を身に付けさせ、心身の健康を育む。



<b>3 目標・評価</b>						
<b>①教職員の資質を高め、児童の学力向上を図る。</b>						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌 (部)	担当者
学校運営	○ 教職員の資質向上	・校内研究の推進 ・教師の授業力向上	・全職員で取組内容を共通理解して取り組むとともに、全クラスで実践的授業を実施する。 ・児童アンケートで、「授業が楽しい」の指標を85以上、保護者アンケートで「授業を工夫している」の指標を80以上にする。	・外国語の指導については、スモールトークの研修や小中連携を図りながら、学校間の滑らかな接続を図りたい。 ・国語や算数を中心とした教科指導については、西部型授業を基本とし、「わかる授業」づくりに努めると共に、学年間で滑らかな接続ができるようにする。 ・学力向上と小中連携に関して、先進校視察や教育センターなどの講座や研修会に職員を積極的に参加させ、授業力の向上を目指す。 ・校務分掌を複数の職員で行えるように、教員の配置を工夫する。 ・全職員に「勤務時間に関するガイドライン」を周知・徹底を行う。 ・様式、業務データ等の共有化がしやすいように共有フォルダ内の整理を進める。 ・働き方改革についての研修を設けたい。	研究推進委員会	研究推進委員
	● 業務改善・教職員の働き方改革の推進	・業務効率化の推進	・単純な前例踏襲ではない、効率的な業務遂行を工夫 ・各担当業務の情報共有を強化		運営委員会	運営委員
教育活動	● 学力の向上	・個に応じた指導の充実による基礎学力の向上	・CRTで各学年の得点率平均を全国同等か、それを上回るようにする。 ・12月県調査では、各学年の平均を県同等か、それを上回るようにする。	・県指定の小中連携における学力向上事業において、学業指導や教科指導について有小、有中と連携しながら学力向上の方策を協議する。 ・西部型授業を実践し、学年間や小・中学校の滑らかな接続ができるようにする。 ・国語では、読解力と表現力の向上に重点を置いて指導する。 ・読書に親しみ、今年度以上の冊数を目指す。 ・算数スキルタイムで基礎・基本を徹底する。 ・「有田っ子スタイル」の見直しを行ない、学習規律の指導を強化する。 ・家庭学習の習慣化を図る。	学力向上部	・主幹 ・研究主任 ・指導法改善担当
学校運営	○ 開かれた学校づくり	・地域と連携した体験活動の推進	・地域の人材を活用した体験活動を通して、地域との連携を進める。	・地域の特色から焼き物体験が中心であるが、他の体験活動ができないかを検討し、体験の種類に応じた人材との連携を広げたい。	研修部	・教頭 ・主幹
		・積極的な情報発信	・保護者アンケートで「学校の教育方針・内容を概ね知っている」の指標を80以上にする。	・学校だより等による情報発信を定期的・継続的に行う。 ・学校の重点目標の開示をPTA総会の他にも知らせる機会を設けたい。 ・学校掲示など来校の際に目に触れられる工夫も必要である。	教務部	・教頭 ・教務
<b>②児童へのきめ細かな支援を行い、心の教育を充実する。</b>						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌 (部)	担当者
教育活動	● 志を高める教育	故郷・有田を誇りに思い、将来の夢を実現しようとする実践力の育成	・発達段階に応じて、有田町のことや産業について知り、故郷のよさについて気付く。 ・有田町の産業について学び、人々のこれまでの苦労や工夫、努力の大きさに気付く。	・生活科や総合的な学習の時間を中心として、実際に地域の行事に参加したり、職業人や地域住民と出会ったりするなど、実感的・体験的な学びを計画する。 ・いろいろな職業について知り、児童が将来の夢や仕事について考えられるように計画する。	・指導部	・教頭 ・教務
	● 心の教育	・いのちの教育、人権教育の充実	・児童アンケート「学校が楽しいですか」で、「とてもそう思う」の割合を75%以上とする。 ・保護者アンケート「お子さんは、『学校が楽しい』と感じていると思いますか。」で、「とてもそう思う」の割合を50%以上とする。	・児童の実態把握をするために県が実施するアンケートの他中部小独自の「月のこころ」を毎月実施、児童の把握に努める。 ・教育相談コーディネーターを中心にSC、SSWを有効に活用しながら子どもを支援する体制を充実させる。 ・道徳や人権・同和教育を校内研修の中に計画的に位置づける。	生活部 教育相談部	灰崎 新谷
	○ 生徒指導・教育相談	・規律ある学校生活の確立 ・教育相談の充実	・学校のきまりや社会のルールを守るようにする。特に、本年度は元気な挨拶ができるよう指導を強化する。 ・児童アンケートで、「悩みがあったとき、相談する友だちや先生がいる」の指標を85以上にする。 ・相談内容を的確に把握し、SCやSSWとの面談や専門家との相談につなげるなど、連絡・調整の機能を適切に果たす。 ・早期にSCやSSWと相談しながら対応するように心がける。	・生活委員会の呼びかけや取り組みを有効に活用し、児童の意識を変えていく。 ・生活の重点目標を年間を通して実践させる。 ・全職員で統一した指導を行う。 ・教育相談コーディネーターが担任との情報交換や校内巡視の機会を増やして、児童理解に努める。 ・毎週の職員連絡会で「気にしたい子ども」の情報を共有し、児童への関わり方など統一した対応ができるようにする。 ・月に一度の「月のこころ」を今後も実施し、児童の実態把握を行い、早期の発見と対応に心掛ける。 ・校内支援委員会を随時開催し、児童とともに担任教師の支援を充実させる。	生活部 教育相談コーディネーター	灰崎 新谷
	● いじめの問題への対応	・いじめの早期発見・早期対応に向けた体制づくり	・保護者アンケート「学校は、いじめ防止に向けた取組を適切に実施しているか」で、肯定的回答の割合を75%以上とする。	・今後もいじめアンケートや「月のこころ」を有効に活用し、早期の発見と対応を継続して行う。 ・連絡会等で、職員間で情報を共有し、共通理解をした上でチームによる対応を心掛ける。	生活部 いじめ防止対策委員会	灰崎 いじめ防止対策委員
	○ 特別支援教育	・校内支援体制の充実	・児童一人一人の教育的ニーズに応じた指導及び支援に努める。	・特別支援コーディネーターを中心に学校内外の支援体制を充実する。 ・学級において個別に指導が必要な児童に対しては、必要に応じて級外や支援員を配置する。 ・児童の状況を正確に把握するため、巡回指導などを活用する。	特別支援コーディネーター	畑野
<b>③望ましい生活習慣を身に付けさせ、心身の健康を育む。</b>						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌 (部)	担当者
教育活動	● 健康・体づくり	・児童の体力向上 ・望ましい生活習慣の形成	・体育的行事に「進んで楽しく参加している」児童の割合を増やす。 ・「早寝・早起き・朝ごはん」を奨励し、保護者アンケートの結果で、肯定的回答の割合を90%以上にする。	・「早寝・早起き・朝ごはん」の励行を児童と保護者に引き続き啓発する。 ・「外遊び」については、体育委員会などの児童会活動を活用し、児童主体で全員が参加するように働きかける。 ・保健体育や食育の授業を充実し、健康の大切さを知らせる。	保体部	・杠 ・松尾
	○ 低学年の学習環境の改善・充実	・低学年の基本的な学習・生活習慣の育成	・「あいさつ・返事をきちんとする」「立腰でよい姿勢ができる」の定着を図る。	・「有田っ子スタイル」を活用し、学習規律を身に付けさせる。 ・「立腰」の姿勢の持続を目指すため、授業中も頻りに声かけをしていく。 ・あいさつは、家庭の協力が不可欠なので、通信等で適宜状況を知らせる。	低学年部	八反田

●は必須項目、◎は特定課題、○は独自評価項目